

6月定例会最終日庁舎位置条例



米原市民報

日本共産党米原市議団
清水隆徳Tel.52-1969
藤田正雄Tel.55-1128
太田幸代Tel.54-2286

http://www.jcp-maibarashigidan.com

前回否決の米原駅東口庁舎案を強行可決

16対4で庁舎位置条例可決される。

6月16日の議会最終日、清水議員は日本共産党米原市議団を代表して、庁舎位置条例の一部改正について反対討論を行いました。議長も含めた記名採決の結果3分の2以上の賛成があり、3月議会で否決されていた同一の議案が可決されました。米原市議団としては今後も市民に役立つ市庁舎のために努力することを表明しました。

本会議での採決は、日本共産党米原市議団3人と松崎議員が反対をしましたが、一般的に庁舎を統合するのに賛意を示したものであり、2/3以上の賛成がありました。米原駅東口を支持するものでは全くありません。今日山東庁舎の利活用を当局が表明したことにより、3月議会で反対した議員が賛成に回ったためです。しかし、山東庁舎の利活用については、基本計画策定の中で検討すること、どのようになっているのか明確になっていません。基本的には米原駅東口統合庁舎に反対の立場で討論を行いました。

清水議員の反対討論

私は、日本共産党米原市議団を代表し、採決されようとしている案第59号米原市役所位置設定条例の一部を改正する条例について、(すなわち米原駅東口に市役所を建設すること)に、反対の立場から討論致します。

去る3月議会において、本条例案は、一度は否決されたものでは有りませんか。すなわち、統合庁舎として、米原駅東口はふさわしくないという結論が出されたのです。市民の皆さんは、「これで庁舎問題は、振出しに戻った」と感じておられました。ところが、蓋を開けてみると、庁舎は米原駅東口と全く変わらず、山東庁舎の機能を一部充実させることで一件落着を図ろうとする、誠にもって姑息なやり方としか思えません。どうして、米原駅東口に、そんなにこだわるのですか。

昨年、議会の庁舎問題特別委員会が行ったアンケートで、統合庁舎に対する賛成が62%から有ったとよく言われますが、これは、一般的に庁舎を統合するのに賛意を示したものであり、米原駅東口を支持するものでは全くありません。今日市民の話を聞きましても、「何であんな狭いところへ、行きにくいとか、もつと別の場所がないのか。」と言った声が聞かれます。このように、市民の声が行政に届いていない状況では、市民の信頼は得られなくなっていくでしょう。庁舎問題と一体的に取り組むと言っておられる、宿場町構想も、駅周辺に爆発的に人口が増えない限り失敗に終わるものと思っております。本気で成功させたいと思うなら観光開発に取り組み、庁舎用地をバスターミナルにする。かなりの決断が必要です。米原駅乗降客を取り込もうとしても、現状では乗降客は、乗り換えしか考えていないでしょう。北陸新幹線が米原にきたとしても同じことが言えるのではないのでしょうか。

以上、極めて否定的なことをばかり申し上げましたが、一極集中を進める市のやり方では、合併後10年ぐらいではなかなかうまく行くことは困難と思います。住民の暮らしの応援に重点を置いた施策に専念し、一点豪華な事は謹む市政を進められようかと許されません。

補正予算、防災システムで反対

今回の議案については統合庁舎の基本計画策定委託料を含む補正予算と戸別受信機廃止を前提としてスマホやタブレットに切り替えようとする米原市防災情報伝達システムの契約で1社随契になっていることから反対の立場で討論を行いました。採決の結果、補正予算は16対3、防災情報伝達システムは15対4(澤井議員が反対)でいづれも可決しました。

総務教育常任委員会開催されず

今回の議会で総務教育常任委員会が松崎委員長の役員辞任の動議が可決されました。しかし松崎議員はその意見に従わず、居座り続けました。そのため委員会が空転したのもです。共産党議員団としても、松崎議員の役職辞任、早期の常任委員会の正常化を求めましたが、不正常なまま、最終日を迎えました。政治倫理条例に基づく審査結果、議長の措置、常任委員会の辞任動議をことごとく無視し、自分のプログラムの正当性のみ主張する松崎議員の態度はどんな理由があろうと許されません。

雑感

いよいよ参議院選挙です。安倍首相は、今回の選挙で憲法問題は争点ではないと言っています。経済問題で秘密保護法、集団的自衛権「安保法制」と選挙で争うのではなく、選挙後の多数を頼んで強行を図ってしまえば、今回もその手でやろうとしています。選挙が終わり度ば、「憲法改正を強行」。そんな手を国民は2度も3度も食いません。野党統一で安倍政権打倒。